



からお知らせ



AKB48総出演ドラマ「桜からの手紙～AKB48 それぞれの卒業物語～」で

新たなデジタル展開！



日本テレビ放送網株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 細川知正、以下日本テレビ）は、スペシャルドラマ「桜からの手紙～AKB48 それぞれの卒業物語～」において、これまでの放送形態、視聴スタイル、プロモーション手法にとらわれない、新たな取り組みにチャレンジします。今年7月の地デジ完全移行をにらんだ、フルデジタル時代に相応しいデジタル展開を実施します。

■スペシャルドラマ「桜からの手紙～AKB48 それぞれの卒業物語」

- ・放送日：2011年2月26日(土)～3月6日(日) 9夜連続・全17話放送
- ・出演：AKB48、上川隆也ほか
- ・内容：「卒業」、「恩師の死」をテーマに、高校3年生の女子高生達の青春が描かれた感動ストーリー。
- ・番組公式HP：<http://www.ntv.co.jp/akbsakura>
- ・企画制作：日本テレビ放送網株式会社
- ・製作著作：「桜からの手紙」製作委員会 (D.N.ドリームパートナーズ、VAP)



【日本テレビ史上初のマルチチャンネル放送実施】

2011年3月5日土曜日 25時から5分間、日本テレビの2つのデジタルチャンネル（041Ch、042Ch）でドラマ「桜からの手紙」のスペシャル番組を放送します。チャンネルごとに異なった内容が放送され、041チャンネルではAKB48メンバーの大島優子さん、042チャンネルでは同メンバーの板野友美さんのスペシャル映像を視聴することができます。（※1）

■「マルチチャンネル放送」とは、地上デジタル放送ならではのシステム。HD1チャンネル分の帯域で、SD画質2チャンネルの放送が可能です。

（※1）アナログ放送およびワンセグ放送では、地上波デジタル放送への移行・対応をお願いする内容と共に大島優子さんが出演する、041チャンネルのスペシャル映像を放送します。

【地上波番組とARのコラボレーション】

ARとは「オーギュメンテッド・リアリティ」の略で“拡張現実”を意味します。モニターやカメラに映った現実空間にデジタルデータを組み合わせ、あたかもその場に存在するかのように様々なデジタル情報を表示させる、画期的な最新のビジュアル手法です。最近では、娯楽コンテンツとしてはもちろん、企業の製品、サービスなどのプロモーションにも活用されています。

展開「TNR（てーのーりー）でAKB」

アプリケーションを起動したカメラを指定のマーカーに向けると、AKB48のメンバーが画面上に登場、再生されます。（※2）

映像のコンセプトは「ドラマでは描かれない、彼女達の学校生活のひとコマ」です。

そのままカメラをもう片方の手の上にかざすと、あたかも手の平に乗っているかのような雰囲気を楽しめます。（※3）

（※2）アンドロイド端末をお持ちの方はアプリ検索画面で“AKB48 ドラマ SP 桜からの手紙”、iPhone端末をお持ちの方は、アプリ検索画面で“GnG”で検索。ダウンロードは共に無料です。

- (※3) マーカーが表示される場所、スケジュールのお知らせ
- ・小嶋陽菜「教室で居眠り編」
2月20日 読売新聞紙面、2月21日～26日 日本テレビ非連動データ放送
 - ・板野友美「秘密のメール編」
2月27日 16時から放送のドラマPR番組&非連動データ放送
 - ・宮澤佐江「廊下に立ってなさい編」
2月28日～3月5日 日本テレビ非連動データ放送
 - ・秋元才加「視力検査編」
3月6日 16時から放送のドラマPR番組&日本テレビ非連動データ放送

<画像イメージ>

©「桜からの手紙」製作委員会 (D.N. ドリームパートナーズ、VAP)



【ドラマをより楽しめる新企画データ放送】

展開①「桜からの手紙」サクラサクスタンプラリー

連動データ放送において、視聴した話数に応じ、画面上にスタンプを貼る事ができます。スタンプが貯まると、パスワードが表示され、専用携帯サイトにそのパスワードを入力すると、AKB48のメンバーによるドラマ撮影中のオフショット映像を視聴する事ができます。

<画像イメージ>

©「桜からの手紙」製作委員会 (D.N. ドリームパートナーズ、VAP)



展開②「桜からの手紙卒業名簿」

スタンプをすべて集めると、抽選により480名限定で最終話(2011年3月6日)のデータ放送画面上にお名前が表示されます。ドラマの舞台が女子高という設定にちなみ、性別を男性で登録した場合、名前の最後に“子”が自動的に付くという、ユニークな仕様になっています。

展開③「AKB48カスタマイズウィンドウ」

自分の好きなAKB48のメンバーが大きく表示されたデータ放送画面を、設定することができます。

日本テレビは、今後もフルデジタル時代を盛り上げる新たな施策に挑戦し、魅力的な番組、連動コンテンツの発信をしてまいります。

日本テレビ放送網株式会社 総務局 総合広報部